

[事業計画名]

デザインシステムの導入による、 「おしゃれ力強化」

3Dデザインシステムとホールガーメントコンピュータ横編み機を導入し、デザイン性の高い商品を開発。小ロット多品種に対応し、多様な顧客ニーズに対応した商品を製造販売する。



取 り 組 み の 背 景

当社は昭和26年に創業し、OEMを中心に業績を伸ばしてきた。しかし、中国からの安価な輸入靴下の台頭で業績が大幅に悪化したため、自社ブランドを立ち上げて下請け脱却を図った。「千代治のくつ下」の屋号でインターネット販売を始めたものの、1年程度は苦しい時期が続いた。他業種でデザインを経営に取り入れた話などにヒントを得て、自社ブランドの再構築を目指した。これが功を奏し、ヒット商品も生まれ、今ではインターネット販売がOEMの売上高を上回るまでに成長している。しかし、ヒット商品の販売量がいつまでも維持できるわけではなく、次なる商品開発と、顧客層の拡大が課題となった。

取 り 組 み の 目 標

- デザイン性の向上
- 多品種小ロット短納期の実現
- 実店舗販売によるネット以外での顧客拡大

取 り 組 み の 内 容

今後もオリジナルブランドの売上高を確保するためには、デザイン性を高めて独自の商品展開を広げ、ブランド力を高める必要がある。また、インターネット販売での44%は40代女性で占めているが、顧客層を広げて若い人にも当社の靴下を履いてもらいたい。デザイン性を高めることで、若い世代の顧客が増える可能性があると考えた。そこで、3Dデザインシステムとホールガーメント横編み機を導入し、商品の幅を広げることを目指した。

新設備を導入したことで、靴下だけでなく、従来の設備では編めなかった手袋や帽子、ベスト、親指を抜いた形の手袋など様々なデザインの商品が製造可能となり、商品の幅が広がった。設備の特性を生かしてデザイン性の優れた商品を開発するために、新設備のメーカーが主催する研修会に社員を派遣し、システムを使ったデザインの講習を4週間受講させた。

今後は実店舗にも販売チャネルを増やし、オリジナルブランド「千代治のくつ下」の売上拡大を図る。

POINT 1

多品種小ロットへの対応が可能に

旧設備では段取り替えに時間を要するため小ロットへの対応が困難だったが、新設備では段取り替えの必要がなく、1つ1つ異なる製品を作ることが可能になった。これにより多品種小ロットへの対応が可能になり、追加生産への対応が素早くできるため、余分な在庫が不要になった。



ホールガーメント横編み機



新たな商品

POINT 2

実店舗で直接販売

今までのインターネット販売に加え、実店舗での販売を開始した。店頭でお客様の反応を直接見ることで、多様な顧客ニーズを素早くつかみ、商品開発に活かせるようになった。また、インターネット販売をあまり利用しない顧客にも、当社の商品を知ってもらえるようになった。



敷地内の展示場



三宮の店舗

企 業 概 要

千代田繊維工業株式会社

●事業内容
靴下の製造販売

●主要生産設備
丸編み機50台、横編み機11台

同 社 の 強 み

- ・自分たちのものづくりを貫く姿勢
- ・作るだけでなく売ること重視
- ・新たな若い人材

所 在 地：加古川市志方町永室219-1

T E L：079-452-0243

設 立：昭和37年

代 表 者：代表取締役社長 長谷川 好信

従業員数：18人（平成29年6月現在）

資 本 金：1000万円

E-mail：info@chiyodaseni.com

http://chiyodaseni.com/index.html



千代田繊維工業株式会社

代表取締役社長

長谷川 好信氏

本当に履きたいと思う靴下を届けたい

中国産の安価な靴下が流通したことで、加古川市の地場産業である靴下製造業は大打撃を受けました。当社も売上高が最盛期の3分の1近くに低下し、非常に苦しい時期がありました。そんな中でも国内生産を貫いて、素材の良いもの、履き心地が良いものにこだわって、自分たちが履きたいと思う靴下を皆様にも履いて頂きたいと考え、自社ブランドを立ち上げました。ブランド名の「千代治」は、創業

者の名前からとっています。

消費者のニーズは、3枚1000円の靴下でいいという人と、高くても履き心地のいいものを求める人と、二極化しています。後者を選ぶ人も増えつつあり、自分たちがやってきたものづくりが認められる機会が増えていていると感じます。

新設備を導入することによって、作りたいと思ったものを素早く商品にできるようになりました。また、新たな若い人材が入り、若い感覚のデザインを取り入れるだけでなく、既存のやり方を見直す機会もなっています。

作ること大事ですが、売ることも大事だと考えています。工場敷地内の古い倉庫を改装して展示・販売スペースを作り、三宮に実店舗もオープンしました。今後は、実店舗で消費者のニーズを探りつつ、自分たちのものづくりを大事にしながら、履いて嬉しくなる靴下を皆様に提供していきたいと考えています。